

四種混合予防接種について

(DPT-IPV : ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)

四種混合ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

接種対象者

生後2ヶ月～90ヶ月未満(7歳6ヶ月の前日まで)

標準的な接種時期及び回数

初回接種(3回) : 生後2ヶ月～12ヶ月に3回(20日以上、標準的には56日までの間隔をおいて3回)

追加接種(1回) : 初回接種終了後12ヶ月～18ヶ月に1回(初回接種終了後6ヶ月以上の間隔をおく)

予防する病気

①ジフテリア

ノドについたジフテリア菌が増えて、高熱(38℃以上)と犬の遠吠えのようなせきが出るのが特徴です。重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋症をおこし、命を落とすこともあります。

②百日せき

百日せき菌の飛沫感染でおこり、連続したせきが長く続き、急に息を吸い込むので笛を吹くような音をとまなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等が起こる病気です。乳児では無呼吸状態や脳炎や脳症などの重い合併症になることがあります。

③破傷風

傷口等から破傷風菌が体に侵入し、菌が出す毒素は神経麻痺、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などをおこします。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸できなくなります。

④ポリオ

ポリオウイルスによって四肢に麻痺を起こす病気です。ヒトの便中に排泄されたウイルスが他のヒトの口から入り、咽頭または腸から吸収されて感染します。日本では自然感染による患者発生はありませんが、一部の国では今でもポリオの流行があり、いつ国内に入ってくるかわからないのでワクチン接種は欠かせません。

ワクチンの有効性

ジフテリア、百日せき、破傷風及びポリオ(1型・2型・3型)について、発症防御レベル以上の抗体産生を誘導し、発症を予防します。

ワクチンの副反応

主な接種部位の副反応として、注射部位紅斑、注射部位硬結、注射部位膨脹などがあり、注射部位以外の副反応として発熱、気分変化、下痢、鼻水、せき、発しん、食欲減退、咽頭発赤、嘔吐などがあります。極めてまれに、ショック、アナフィラキシー様症状^{※1}、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどがみとめられます。

^{※1} 通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと